

資料 1)

原爆報道 講座「ヒロシマ」(第 5 回)

2008.5.27 (宇吹 暁)

世界は原爆をどう知ったか

ビデオ「NHKスペシャル：世界は原爆をどう知ったか」(1989年8月7日放送。50分)

マンハッタン・プロジェクトのプレス・リリース

マンハッタン・プロジェクトは、1942年8月13日、原子爆弾製造を目的として米合衆国陸軍の管下に作られた組織である。47年1月1日、米国原子力委員会(46年1月24日設置)に吸収移転されることにより、4年有余の特異な歴史を閉じた。

その歴史は、同プロジェクト自身によって『マンハッタン・プロジェクト—公的歴史とその諸資料』(MANHATTAN PROJECT - Official History and Documents)としてまとめられている。

101点のメモと6点の参考資料(番号にAまたはBを付記)からなるこの資料は、時期的には、広島原爆攻撃直後から同プロジェクト廃止までのもので、発表源は、ホワイト・ハウス、国務省などのものが若干あるが、ほとんどは陸軍省である。

内容は、原爆開発を推進した立場からの公式見解として、あるいは原爆情報統制下の公式発表として、いずれも重要な資料である。

被爆直後の原爆報道(米英)(日本)

70年生物不毛説

被爆直後、広島には今後70年間放射能が残るため人が住むことができないとする説が流布していた。いわゆる70年生物不毛説(一説に75年間ともいわれる)である。

この説は、8月8日付ワシントン・ポスト紙第一面に掲載されたH・ジェイコブソンというアメリカの原爆開発に関与した経験を持つ一科学者の談話に端を発していた。

しかし、アメリカ国内では、FBIや軍事諜報部に脅迫されたジェイコブソン自身の取り消し声明と、アメリカ陸軍省の否定声明により即日葬り去られた。

アメリカ軍は、直後から日本向けに「広島は75年間人畜の生存を許さぬ土地となった。また被害調査のため学者を派遣するがごとき行為は自殺に等しい」などの謀略放送(「読売新聞」1945年8月25日)

70年生物不毛説の流布

8月23日の『毎日新聞』の見出し

世紀の恐怖 原子爆弾 残虐性更に暴露さる

傷者も漸次悶死 今後七十年間は生物の棲息不能 廃墟両市 戦争記念物に

原爆症研究報道

朝日新聞(大阪版) = 「原子爆弾—浅田博士に聴く」(8月20日から7回)、「原子爆弾報告書」(9月14日から5回)の2本を掲載。

前者は大阪大学、後者は京都大学の調査班の広島における調査結果の概要。

中国新聞＝「原子爆弾の解剖－都築博士を囲む座談会」（9月11日から3回）を連載。

調査研究

70年生物不毛説の否定

米軍の調査 [焦土に芽吹いたカンナ](#)：1945年9月下旬。「70年生物不毛説」の流布する焦土の中で、これを見た人々は、勇気と希望を抱いた。

復興報道（連載）

プレスコード（1945年9月19日）により様相は大きく変化。

中国新聞＝「復興する町内会」（1945年11月10日から20回）をはじめとして翌年以降も8月前後に連載を掲載し続けるが、占領期間中のテーマは「復興」が主体。

朝日新聞＝1952年まで原爆をテーマとする連載が現れることはなかった。

占領下の原爆報道

『回顧五年 原爆ヒロシマの記録』（瀬戸内海文庫）。

マスコミ内部での原爆問題への自主規制＝当時の一般紙に、占領軍の圧力に抗して展開された峠三吉などによる文学活動や丸木夫妻の「原爆の囀」展の動向を報じたものはほとんど無し。

7・8月を中心に大量の原爆関連記事が紙面を占めるようになるのは、講和条約が発効した1952年以降のこと。

原爆報道前史（連載）

講和条約が発効以後、毎年8月前後には新聞各紙が、数回から十数回の企画・連載を組むようになる。

中国新聞「原爆モニュメント遍歴」（1952年7月29日から8回）

＝原爆で断ち切られた人間の生命を永久に結び付ける象徴として原爆慰霊碑を紹介したもの。この後、原爆慰霊碑は、中国新聞だけでなく他紙によっても、しばしば取り上げられる。

原爆白書＝朝日新聞（広島版）「原爆白書」（1952年7月29日から5回）。講和条約発効前後に広島で胎動を始めた被爆者の組織作りや平和運動などを取り上げたもの。原爆企画・連載には、「原爆症」や「復興」といった単一のテーマを取り上げたもの以外に、その年の原爆問題をめぐるさまざまな動きを紹介する「原爆問題年報」的なものがあるが、朝日のこの「原爆白書」企画は、確認できるこうした形式の最も早い例。

中国新聞の大型連載

（1950年代）＝「原爆十年－広島市政秘話」（1955年7月15日から74回）、「ヒロシマ前後－1市民の日記から」（1956年7月26日から21回連載）、

（1961年）＝「星は静かに動いた」（1961年7月1日から32回）、「碑は見つめている」（夕刊、同年7月13日から30回）、「原爆に描く」（同年7月30日から22回）、「フェニックス広島号の冒険」（第1部・第2部、1961年10月10日から134回）、

(1962～64年)＝「ヒロシマの証言」(1962年7月15日から33回)、「平和の条件－アキラから広島へ」(1962年10月4日から20回)、「ヒロシマ十八年目」(1963年7月16日から20回)、「世界の中のヒロシマ－平和巡礼団に同行して－満井特派員記」(1964年7月10日から39回)

中国新聞の被爆20周年報道＝1965年7月8日から「ヒロシマ二十年－世界にこの声を」(30回)、「あの日と私」(20回)、「炎の系譜」(30回)、「広島記録」(90回)、「廃墟からの道－広島復興裏面史」(夕刊、30回)の連載を開始した。中国新聞はこの外に「世界にヒロシマの声を－高まる『原水爆被災白書』運動」(3月22日から3回)、「碑よ安らかに」(夕刊、7月14日から30回)、「ヒロシマのみなさまへ」(7月14日から6回)、「原爆症二十年」(10月25日から12回)などを連載

日本新聞協会賞受賞＝日本新聞協会＝1946年7月、全国の新聞、通信、放送各社で創立した社団法人。

現在の会員数は、新聞112、通信4、放送38(ラジオ単営8、テレビ単営24、ラ・テ兼営6)の計154社。

日本新聞協会賞＝1957年に新聞(通信・放送を含む)全体の信用と権威を高めるような活動を促進することを目的として設置。中国新聞社が1965年に受賞。

受賞の意義＝被爆20周年を迎えた1965年には、他社も積極的に原爆問題を取り上げたが、同社の力の入れようは群を抜くもので、高い評価を受ける。原爆報道が認められたとも考えることができる。

中国新聞の受賞歴＝1985年の「段原の七〇〇人」(1月1日から87回)・「アキバ記者」(1月1日から32回)

1990年には「世界のヒバクシャ」(1989年5月21日から134回)、1995年の「ヒロシマ50年報道」(特集「検証ヒロシマ1945－1995」、「核と人間」、「核時代」など)でも受賞。

平和記念式典(新聞)＝原爆問題は、その報道に軽重こそあれ被爆直後からマスコミの重要なテーマ。

朝日新聞(東京版)の場合、広島市の平和記念式典は、第1回から全てを報じており、しかも、そのほとんどは一面トップかそれに準じる。

朝日・毎日・読売・日経の4紙の8月6日付社説＝1949年には、「広島に残る”生きた影”」(朝日)、「平和のいしずえ」(毎日)、「原爆4周年を迎えて」(日経)と3紙が取り上げ、1955年以後は、4紙がほぼ毎年8月6日前後に、世界の核状況と被爆者に関連した社説を掲げ続ける。その他の記念日で、このように各紙が毎年取り上げるテーマは、およそ終戦記念日くらいのもの。核をめぐるこうした関心は、全国各地のローカル紙の社説でも確認できる。

夏の平和番組(ラジオ・テレビ)

放送はヒロシマをどう伝えてきたか：1998. 7. 17～18日 NHKテレビ放映 460811 NHK 広島平和復興祭(ラジオ)、480806 NHK 平和祭(ラジオ全国中継)

6008 NHK 日本の素顔「黄色い手帳」、651128 NHK ドキュメンタリー「耳鳴り～ある被爆者の生涯」、691009 HTV 「碑（～広島二中一年生全滅の記録）」

910806 RCC 「おとう・・・小頭児の45年」、670804 NHK 現代の映像「軒先の閃光 よみがえった爆心の町」、NHK「原爆の絵」、「昭和20年 被爆の言葉」

NHK原爆たすけあい特集＝1953（昭和28）年8月1日～10日

同年6月22日の中央共同募全会理事会で決定された「原爆障害者NHKたすけあい旬間」の一環

8月4日特集番組「原爆記念日に寄せる言葉」（その1）広大学長森戸辰男、広島県知事大原博夫、ABC副所長慎弘、画家福井芳郎

8月5日特集番組「原爆記念日に寄せる言葉（その2）広島市長浜井信三、護国神社奉賀会会長小谷伝一、弁護士今西貞夫、広島女学院大学学長広瀬はま子

全国募金運動実績

約509万円：都道府県別実績＝広島県（90万円）、長崎県（16万円）＜両県の実績＝21%＞、東京（75万円）、北海道（41万円）、愛媛（36万円）、大阪（36万円）、宮城（22万）、愛知（19万）、埼玉（17万円）、京都（12万円）、鹿児島（11万円）、山形（11万円）以上10万円以上実績分。

配分：広島＝359万円、長崎＝150万円。それぞれ原爆障害者の治療費に充当される。

番組概要（ラジオ中国）＝昭和27年の秋からラジオの放送を開始したRCCは、その翌年の7月に連続放送劇「ピカドン物語」を放送して以来、昭和34年のテレビ開局で、ラジオ、テレビを通して、数々の特別番組やレギュラー番組で、原爆問題と取り組んで来た。

『原爆被災資料総目録』 [第2集](#)

ヒロシマの黒い十字架＝RCCラジオ 2000年11月26日放送。平成12年度文化庁芸術祭ラジオ部門芸術祭大賞受賞

中国放送「ヒロシマと音楽」資料作成事業＝被爆50年の節目1995年にスタート。1999年7月現在、1800曲のデータベース化：：：内容：1. 広島原爆被害をテーマとする曲、2. 「ノーモアヒロシマ」の祈り・願いをテーマとする曲、3. 核兵器のない平和な社会の希求をテーマとする曲、4. 広く「ヒロシマ」をモチーフとする曲。

<http://www.rcc.ne.jp/hmusic/>

番組概要（広島テレビ）＝広島テレビは、あの一瞬から17年後の昭和37年に開局。以来、各時点での広島の現実をとらえ、番組の制作、放送活動を続けています。とくに「人間、そのたくましきもの」「碑」など一連の、「広島シリーズ」は国内はもとより、ひろく海外にまで紹介され、大きな反響を得ています。シリーズのスタッフのほとんどが被爆者か、被爆者を家族にもつ者たちで、広島人として、広島の体験と現実を世界に知らせるため、制作活動に熱意を燃やしています。

広島テレビの受賞作品＝「人間、そのたくましきもの」＝1966年度芸術祭奨励賞、プラハ国際テレビ優秀監督賞、「百日紅の花」＝1967年度芸術祭奨励賞、国際エミー賞優

秀賞=アメリカ=、「ある夏の記録」= 1967年度民放賞報道社会番組金賞、イタリア賞
20回大会特別賞、「朝顔」=1968年度芸術祭奨励賞、オンドラス賞=スペイン=、「碑」
広島平和音楽祭=広島テレビ主催。第1回 1974年8月9日。美空ひばりが出演。全
電通など8団体が原爆裁判映画「人間であるために」を抗議上映。

一本の鉛筆の評価

「美空ひばり」は昭和48年紅白歌合戦に落選した。弟が暴力団に関係があった事が理由
だったがマスコミの「ひばりバッシング」が始まっていた。その翌年広島音楽祭で「ひば
り」は「1本の鉛筆」を唄った。幼い日、空襲の恐ろしさを体験し平和への願いを込めた
ものだったが、売名行為だと揶揄された。

そのとき作詞の「松山善三」は「1本の鉛筆は鉄砲の弾より強い」と反論。「ひばり」はそ
の15年後にも、平和への願いを込めて唄っている。(本人が選んだ10曲の中にこの曲が
入っている) ノンフィクション作家 新井恵美子

<http://www8.gateway.ne.jp/~juvamad/10syuunennkinenn.html>

2000(平成12)年平和宣言(広島)

20世紀最後の8月6日、私たちは、人類の来し方行く末に思いを馳せつつ広島に集い、
一本の鉛筆があれば、何よりもまず「人間の命」と書き「核兵器の廃絶」と書き続ける決
意であることをここに宣言し、すべての原爆犠牲者の御霊に衷心より哀悼の誠を捧げます。
広島市長 秋葉 忠利

平和記念式典(放送)=NHKも第1回から実況放送を続けている。1947年はローカル放
送であったが、1948・49年には全国中継。1951年と52年は、ローカルに戻ったが、1953
年以降再び全国放送となり現在に至る。1953年8月には「NHK原爆障害者たすけあい特
集」を全国放送。

日本独自の「原爆報道」=われわれは、何気なく「原爆報道」という言葉を使っている。
しかし、こうした報道の分野が存在するのは恐らく日本だけ。

原爆報道の特徴・機能=①原水爆禁止運動への注目と厳しい批判、②被爆実態の解明、③
被爆体験の継承

原水爆禁止運動と原爆報道=マスコミは、1963年の原水爆禁止運動の分裂を契機に、運動
に対する厳しい批判者になるとともに、既成の運動の枠外での新たな運動の積極的な支持
者となる。原水爆白書作成運動(1964年~)のイニシアチブは主として大学人が担い、原
爆ドーム保存運動(1966年~)のそれは広島市(自治体)が担っていたが、こうした大学
人や自治体のイニシアチブを支え、それらに動員力と大衆的基盤を与えて、運動にしたの
はマスコミの力。

マスコミによる事業・キャンペーン=さらにマスコミは、単にそうした運動の支持者にと
どまらなかった。運動そのものの提唱者であり、重要な担い手でもあった。NHK=原爆爆
心地復元運動(1966年~)、朝日新聞社=原爆展(1967年~)

朝日の面接調査＝朝日新聞社は、1967年春に全国の通信網を動員して、全国27万8000人の被爆者から無作為に抽出した500人に対する面接調査を実施した。この調査の目的は、「被爆者たちが、戦後22年をどのように生き抜き、何を考え、あの人類最初の悲惨な体験をどう受け止めているか、混乱を続ける原水禁運動に、どのようにつながっているか」を調べることにあった。

被爆実態の解明

マスコミによる世論調査＝本格的な世論調査が、1968年の中国新聞社を皮切りに、中国放送、NHK中国本部などで行われる。

マスコミによる被爆者へのインタビュー記事＝原水爆禁止運動の中では表に出なかったさまざまな被爆者の声を引き出し、その精神面・生活面での実態を改めて、あるいは初めて明らかにする。

被爆体験の継承

1974年5月にはNHK中国本部が市民に、「絵による証言」の提供を呼びかけ、大きな反響を呼んだ。

『被爆体験・私の訴えたいこと』（NHK中国本部、1977年）、『いつまでも絶えることなく』（NHK広島放送局、1986年）、『手記・被爆者たちの40年』（朝日新聞大阪社会部、1986年）は、マスコミの呼びかけに応じた被爆者の手記を特集したもの。

被爆60年目の現状と課題

- 1 平和行政の国営化、被爆者対策の変化（厚生省＋外務省）
- 2 運動（継続的な原水爆禁止運動と被爆者運動）の担い手の固定化と減少
- 3 被爆地における行事の多様化、イベント化——原爆報道の積極的関与

平和教育・被爆体験継承の場合

現状＝平和行政の定着（枠組みの存在）と被害内容への関心の希薄化
＝関西学院大学との連携講座から

- 1 契機の必要性＝折鶴焼却事件
- 2 伝えられていない被爆体験＝関西学院大学と女学院の学生の差
- 3 伝わらない被爆体験＝過半数にのぼる「原爆投下はやむをえない」「同じような話」。

資料2)今堀誠二著『原水爆時代—現代史の証言(上)(下)』目次

(三一書房、(上) 1959年7月刊、(下) 1960年8月刊)

(上) あとがき：金井利博、黒田秀俊、平和と学問を守る大学人の会

(下) あとがき：ロベルトユンク、平野義太郎、金井利博、黒田秀俊、松江澄、福島賢二、上田矩生、中島保、熊倉啓安、泉谷甫。300人を越える資料提供者。佐久間澄など『広島の平和運動』

(下) VII 1 「原水協のうまれるまで」(石井金一郎執筆)

(上) 庶民の動きを中心として叙述。

(下) 予定では朝鮮戦争以後の庶民の動き

しかし、安保問題の発展で変更せねばならなくなった。

「庶民の動きという間接描写の方法では、焦眉の問題に焦点を合せることが、出来なくなってしまった」

I ピカドンに死なず

幽鬼の町ヒロシマ 今堀誠二＝山口県の西北海岸、一兵士。古賀八重子＝

少国民の最後、「菩提樹」をうたう少女、古賀、敗戦を飾る犠牲者の美 古賀、太田洋子＝
『原子爆弾を浴びて』(朝日新聞(大阪)8月31日)

世界の良心は告発する、ピカドンに屈せず 古賀＝その後結婚。呉でしあわせな家庭。

II 占領軍に屈せず

1 第二の誕生

「生まれめん哉」、**栗原氏と「中国文化」** 栗原貞子、栗原唯一、猪熊弦一郎、細田民樹

プレスコード下の最初の刊行物 『中国文化』創刊号

原爆時代史の朝ぼらけの記録 大久保沢子、山本康夫、井口元三郎、中村緑雨、神田三亀男、
ヒロシマは歴史の証人 細田民樹、山本康夫

2 ざんげの道

悲嘆の日記「さんげ」 正田篠枝、吉田一、**トマトをめぐる母子の悲歌**

守られた非合法出版物 正田誠一、山隅衛、峠三吉、**死の商人のざんげ** 正田篠枝

地球を動かす支点 正田篠枝 **警告ビラは回収された** 正田篠枝、山崎与三郎

3 無欲の顔

村にきたジープ 大田洋子、**原爆について語るな 作家の眼がとらえた「屍の街」**

無欲顔貌 人間の精神はボロになった 平和をかえして下さい ジュノー博士、**いまだ癒えぬ傷あと**

4 原爆エレジー

原子野に咲いた「夏の花」 原民喜、貞恵夫人、**壊された詩碑** 山本健吉、佐藤春夫、佐々木基一、ジョン・ハーシー、**忘れかけたあの日の記憶** 峠三吉 **「長崎の鐘」** 永井隆、

式場隆三郎、吉田健一、**原爆エレジーの流行** 永井隆、細田民樹、小倉豊文

5 よみがえった記録映画

映像になった記録 根岸寛一 **占領軍の撮影禁止** 岩崎昶、デーブ・コンデ、伊東寿恵男、重富芳衛 **生きていたプリント** 岩崎昶、**公開された被爆写真** 土門拳

6 科学者の道

廃墟に芽ばえた国民の科学 玉川忠太、喜多村広島県衛生課長

災害調査はじまる 荒勝文策、杉山繁輝、島本光頭、大橋成一、仁科芳雄

奇病の発生第二期症状 蜂谷道彦、病理へ振るうメス 玉川忠太、小山眼科医長、蜂谷道彦、松本朝栄

全滅した劇団「桜隊」 草野信男、都築正男、丸山定夫、徳川夢声、仲みどり、三宅仁

都築氏の活躍 都築正男、仲みどり、大橋成一、三宅仁、山崎文男、杉本明雄

世界最初の原爆症講演会 都築正男、三宅仁、蜂谷道彦、片島同盟通信社記者

原爆症救護病院 都築正男、大橋成一、リボー中佐（エール大学教授）、メイソン大佐

山津波にのまれた京大班 井街譲、松村大佐、天野重安、杉山繁輝、木村毅一、真下俊一、清水栄、リボー中佐、クルーガー、木下良順、三宅仁、玉川忠太

災害調査研究特別委員会 山崎匡輔、天野重安、袴田三郎、岡野、関野

きびしい原爆の秘密保持 玉川忠太、リボー中佐、中西勝治、ヘーンショウ、テラーABCC所長、大橋成一、藻谷、丸木夫妻

撤去された研究施設 山崎匡輔、仁科芳雄、ケリー、アレン、玉川忠太、都築正男

原爆はGHQのタブー 木下、三宅、大橋、都築正男、ケリー、天野重安、渡辺漸、三谷靖、小山綾夫、リボー、亀山直人、菊池武彦、木下良順、仁科芳雄

終戦の日に始った原爆戦争の準備 メイソン大佐、ブラケット、都築正男、パターソン陸軍長官、

恐るべき後遺症 大田洋子、原民喜、栗原、蜂谷道彦、都築正男、重藤文男、浜崎、岡村、黒川、

原爆症とは何か 今堀恭子、杉原芳夫、クーニー、サムス大佐

被爆者はABCCのモルモットか 吉川清、テラー、楨弘、中泉正徳、マドン、天野重安、武谷三男、マクドナルド、武島、クーニー、楨弘、レイノルズ

原爆禁止は科学者の道 土門拳、湯川秀樹

III ノー・モア・ヒロシマ

1 原爆は戦争ではない

広島に向った青い眼の記者 ウィルフレッド・バーチェット、

死臭と敵意の中で 長谷川同盟通信社外信部長、中村敏、歌橋淑朗、伊藤朝子、太宰博邦、永原敏夫、勝部玄、

ヒロシマからの報告 歌橋淑朗、井本大佐、畑元帥、伊藤朝子、安原善次

人類よ！広島をくり返すな ウィルフレッド・バーチェット

原爆患者の存在を抹殺 ウィルフレッド・バーチェット、ファーレル代将、ニウマン代将、都築正男、重富芝衛

勝利した官製ニュース バーチェット大田洋子、W.L.ローレンス、マーク・ゲイン

二つの原爆処理方式 ブラケット、ジェームズ・フランク、アインシュタイン

科学者の「十字軍」 スマイス、レオ・ジラード、バーチェット

人道主義と反戦主義

全米を震撼させた実話小説 ジョン・ハーシー、クラインゾルゲ神父、谷本清

「ヒロシマ」の主人公たち ノーマン・カズンズ、アインシュタイン

人道主義の原爆否定 ジーメス神父、佐々木日赤外科医師、小倉豊文

同情はごめんだ ウィリアム・シムス外信部長（ハワード系新聞）、フラナガン神父、ヴォー
ーン UP 副社長、ヘレン・ケラー、ブランデン、ザビエル巡礼団、

アメリカの盲点 バンディット・ネルー、ノーマン・カズンズ、

世界連邦主義 ジョン・ハーシー、ノーマン・カズンズ、パール・バック、谷本清、浜井
信三、

ピース・センターと精神養子 谷本清、パール・バック、ジョン・ハーシー、ノ
ーマン・カズンズ、

原爆乙女の厚生 真杉静枝、谷本清、柳原繁登、グルンドウィッヒ、長
田新、

憤激をかったルーズベルト夫人 エリノア・ルーズベルト夫人、谷本清、松岡洋子、
フランクリン・ルーズベルト、松岡洋子、テラー ABCC 所長、ルイス大尉、谷本清、カ
ズンズ、

3 平和祭

広島平和復興祭 クーニー軍医大佐、平岡養一、巖本真理、月丘夢路、千葉早智子、二葉
あき子、木原市長、ハーヴィー・サーティン少佐

46・7年の世界の動き 藤原咲平中央気
象台長、宮本顕治

マ元帥の教書と「平和宣言」 石島治志広島中央放送局長、浜井市長、
中川秋一（広島地方労働組合会議）、マッカーサー元帥、田上中尉、サムス報告、クーニー
大佐、森戸文相、楠瀬知事、川本泉、

原爆をとりあげたアメリカの新聞 ニューヨーク・タイ
ムズ、ワールド・テレグラフ、ヘラルド・トリビューン

8・6をカーニバルにするな 名
柄正之、川合い玉堂、ロバートソン中将、

世界でもたれたヒロシマ・デー アルフレッド・パーカー、ジョン・ハーシー、浜井市長、

貧弱だった「原爆否定の研究室」 ロバートソン中将、ノーマン・カズンズ、

平和こそ女性の幸福の源 原爆外交と広島の復興

大衆から浮いた平和祭

4 偏見を乗り越えて

東洋にかけるアメリカの橋 フロイド・シュモーター博士、ルサナ、平林清、

クエーカーの絶対平和主義 シュモーター、ハーマン・ハゲドーン、

シュモーター氏の「広島の家」 ニコルソン、アンドルウ牧師、テイプス、ジェンキンス

私は共犯の屈辱を抱いてここに立つ シュモーター、高良トミ、谷本清、マッカーサー元帥、兼
田幸子、メリー、ノーマン・カズンズ、浅野院長、

神よ平和を来らし給え シュモーター、村上忠敬、浜井市長、ヴァイニング夫人、

むずかしい平和住宅の運営 湯浅エイ子、山本初枝、

ブ夫人の公民館 ブライアント夫人、シュモーター、アンドルウ牧師、ビンス・オドソン

平和運動を離れた「広島の家」 シュモーター、

平和精神をうらづけるものは何か シュモーター、
シュ氏のピントの甘さ シュモーター、山本初枝、

ブ夫人への一票は原爆防止の一票 ブライアント夫人、ミューラー、シュモーター、

IV 過ちは繰返させぬ

毆殺されたアメリカ兵 重富芳衛（毎日新聞記者）

恩讐を越えた供養塔 大田洋子、川
本福一、

原爆で死んだ異国人 張樹寛、李成仁、楊子玉、呂玉仁、王文章（＝中国人）

安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから 浜井市長、丹下健三、雑賀忠義、パール博士、古賀・栗原・正田。 **あとがき**

以下 下巻

V 崩れぬ平和をかえせ

あるブルジョアの一家、三吉の少年時代、原爆の日より、広島日鋼争議、平和大会と「われらの詩」、朝鮮戦争への抵抗、砲声下の原爆詩集、平和運動の組織化へ、美しい生涯と原爆症、生きている峠三吉、

VI 朝鮮戦争に抗して

1 原爆禁止運動の烽火

原爆は世界をゆるがす、歴史の暗転期1949年、公安条例の舞台裏、イールズ声明と原子戦準備、平和擁護広島大会、ヒロシマは原子兵器の廃棄を要求する、もえあがっていた市民の願い、婦人運動と原爆理解、青年運動と青年教師、歴史の重み、平和擁護東京大会も原爆禁止を要求、国際的評価について

2 ストックホルム・アピール、原爆戦争にうち勝つ

広島平和擁護委員会、牧師・教授も平和委へ、開戦前のSアピール、朝鮮戦争を企てた人、戦時下の言論統制、広島平和委の弱体化、大会を支えるもの、8・6大会の前哨戦、大会の記録、巧妙を極めた非合法集会、共産党の分裂と大会のありかた、平和擁護日本委員会、第三次大戦を防止した8・6大会、枯尾花戦争とトルーマンの原爆使用声明、ワルソー大会と世界平和評議会、平和運動、原爆使用を阻む、朝鮮戦争は天佑か、日本戦没学生記念会、立ち上がった青年団、Sアピール運動掉尾を飾る、立ち上れない労働者、労働者の意識構造、ある詩人のねがい、

3 流星光底長蛇を逸す

マスコミへの注文、国民運動の目標、全面講和運動、ベルリンアピールをめぐって、即時停戦が必要だったのに、マ元帥の解任、朝鮮停戦交渉の舞台裏、平和運動の良心と責任、レジスタンス、平和の闘士団、署名運動と組織強化、警官包囲下の8・6大会、平和戦線とは何か、平推の消長、単独講和と二挺拳銃の平和記念祭、踏まれてもけられても、情勢判断を誤った平和運動、

4 冬の旅に行く

VII 人命は冷戦より尊い

1 原水協のうまれるまで

ビキニ事件、原水爆にたいする国民のいかり、杉並アピール、アピール運動の性格、全国協議会の結成、原水爆禁止運動広島協議会、8・6広島平和大会、広島大会の提案、署名運動の意義、日本原水協の成立、

2 輝かしい啓蒙—ヒロシマ大会、

3 原水爆戦略との対決をめざして—ナガサキ大会

4 フォールアウトとロケット基地にいだむアジア民族主義—第三回大会

5 東西の兵力引離しと日本の非核武装化のために—第四回大会

6 東西融和の促進と安保改訂—第五回大会

7 世界大会への批判と妨害と謀略—一部外国代表の思想と行動

VIII 新紀元は始まる

あとがき

資料3)

日本表象文化史(第12回)2008年1月21日資料

戦艦大和ブーム

1990年基本計画策定。

2005年4月23日呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)開館。

2005年10月10日5時現在で86万9025人が入館。

7月22日、NHK「その時歴史は動いた」放映(上半期再放送リクエストNo.1)。

10月10日、呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)主催シンポジウム

「戦後六十年 戦艦大和を語る」。呉市文化ホール。

シンポジウムパネリスト：阿川弘之・松本零士氏・的川泰宣(宇宙航空研究開発機構)・半藤一利・坂上順(東映常務取締役)・小笠原臣也市長、戸高一成館長。

12月17日東映「男たちの大和」公開。

[日立造船向島西工場「男たちの大和」映画ロケセット入場まで](#)、[「男たちの大和」映画ロケセット](#)

シンポジウム「戦後六十年 戦艦大和を語る」。(仮)

小笠原臣也＝1990年海事歴史博物館の基本計画策定。日本の近現代史とともに歩んだ呉の歴史。技術を伝える。戦争をくぐりぬけた事実、平和の尊さを伝える。全国民の注目。入館者40万人目標が昨日で84万人を突破。年内に100万人を超える勢い。半数は県外から。展示内容に高い評価。呉の持つ技術・医療機関?の充実が全国に知られる。観光客の増加、企業誘致、定住促進への波及効果の期待。

＝昭和30年代に吉田満の著書で始めて大和の詳細を知った。平成2年海事博物館を計画。他の同様の博物館にない呉らしい特色。海軍の技術を伝える博物館。技術だけで良いのかという意見、国策など背景も必要という結論。世界最高の技術を持ちながら世界の孤児となった富国強兵策の招いた悲劇。大和はこのシンボル・象徴として語るができる。

＝人により引き付けられるものが異なる。戦後50年にシンポジウム「大和に思う」を開催。以後毎年開催。9回やっても語りつくせない。

＝全国民に一度は見てもらいたい。

戸高＝2005年4月23日開館。今日5時現在で86万9025人が入館。館長になる前昭和館に勤務。

＝幼稚園の時から「大和は世界一」を刷り込まれた。日本人の心に刷り込まれた大和。その魅力は。

＝技術と歴史と人間の関係。大和ミュージアムの今後に期待するもの。

阿川＝3年半足掛け5年、海軍士官。一度も大和を見たことがない。山本五十六も一度も見えていない。彼が見たいと申し出たが、鎮守府長官は「海軍大臣の許可が必要」と言って断る。武蔵は横須賀で昭和19年6月に見た。

＝当時の日本の最高能力の結晶。帝国海軍は終始英国を模範とする。大江アツシの発言「貧

乏海軍、油不足、大和・武蔵は日本を滅ぼす」。無用の長物。こうした矛盾を考える必要あり。

＝悪口を言われて自信を失った日本人が自信を持てるように。

松本＝終戦時 7 歳、小学校 2 年。働き手が帰ってこなかった家族の悲惨を見てきた。3000 人の大和の犠牲者。他の護衛艦の犠牲者。「宇宙戦艦大和」を作るとき、軽々しく扱うわけにはいかないと悩んだ。スペースファンタジーという映像にしてよいのか。今でもこの思いはある。将来も消えることのない重いテーマ。「戦艦の歴史は大和で終わった」

＝米軍兵士にカメラを向けられることを屈辱的に感じた。占領期の嫌な思い。プライドを失わなかったのは大和と八幡製鉄所の存在。今は膝をついているだけ、との思いが心の支え。小学校 3～4 年生にはプライドが必要。映画「戦艦大和」で詳しいことを知る。水中に浮く死体と実家でハイハイする赤ん坊をダブらせた映像が衝撃的だった。

＝大和とともに時代的背景。外国技術との対比。3000 人の犠牲者への思い。

的川＝「宇宙戦艦大和」は若者に大和を伝えた意義。実家からは呉湾が見下ろせたが、南側は板張り。兄は、学徒動員で大和の魚雷を作っていた。呉服屋。呉は全国に知られていると思っていた。同様に大和は神様のような存在。ロケット技術は、ドイツに次ぐ水準だった。国産のペンシルロケットの燃料は大和の大砲の燃料を作った人と同人。

＝スペースシャトルの実験室の名前のダントツ候補は大和だったが希望になった。科学未来館の 1 年目の入館者は 70 万人。国は貧しくても大きなプロジェクト。現在、巨大なプロジェクトが必要。

＝大和が戦後に残したもの、当時日本が持っていた技術をほぼ総動員。日本製のビッグプロジェクト。日本のものづくりの伝統。大和のシステム、膨大な部品を使用。1955 年に始まったペンシルロケットとの類似性、ビッグプロジェクト、町工場などの個別の技術も生かされる。

＝大和の過去の魅力を未来へどうつなぐか。ミュージアムを作ったプロセス、関係者の努力。地元の入館者の増加策。

半藤＝大和は、GHQ の「太平洋戦争史」で初めて知った。文芸春秋昭和 30 年 11 月号に大和主任設計官の福田ケイジの話を編集者としてまとめて掲載した。大和には仕官以上の部屋に冷房があった、甲板を通らなければ右舷から左舷に行けなかった、400mm の鉄鋼で弾薬庫を囲んだ。平賀ゆずる東大工学部長が 46 センチ砲 10 門を設置するよう提言し自ら描いた設計図を持参、山本五十六は「大艦巨砲主義はなくなるので、お前たちは失業する」といっていたが、引き取るときは「良い船を造ってくれた」と言った。

＝昭和 20 年 4 月、クサガゲンノスケ参謀総長が伊藤シゲイチ艦長に作戦を伝える。艦長は当初反対していたが「全軍特攻のさきがけとなれ」の言葉に受諾。「作戦の中止」残りの駆逐艦 4 隻が、沖縄に行かず大和の生存者の救助に当たることができた。特攻は 2 階級特進なのに大和の犠牲者は 1 階級特進。「作戦の中止」が原因か。船は必ず沈む、人間の判断が犠牲を少なくする。

=仏造って魂入らず、とならないように。坂上=7ヶ月間映画の少年兵を訓練。これを見て感じるのは、日本が失ったのは礼儀。

坂上=取材から2年間、呉市民にお世話になった。2001年、知覧から飛び立った特攻で生還した人物を取り上げた映画「ホテル」（高倉健主演）を作る。2年後、大和から生還した人の娘が、大和の沈没地点に父の散骨のため枕崎から飛行機で飛び立った。5人が乗り込んだが、そこに同乗。8月6日に総理大臣が来るのに呉には来ない。もし沖縄まで大和が行っていたらどうだったか。大和の話をして良い雰囲気になった。映画には、「死にぞこないと言われてもよい、生き抜いてやる。そうでないと死んだ者の本当の気持ちを伝えることができない」という台詞を入れた。体験者の最後の言葉を伝える最後のチャンス。

=伊藤司令官は渡哲也が演じる。向島日立造船所に全長の2/3のロケセット。俳優は全員が背筋を伸ばし緊張してきた。建造に携わった人、乗組員の姿を通して日本人としてのあり方を問いかける。

半藤

小笠原

戸高=注文の多い料理店といった感じ。

今後の課題

[財団法人 日本殉職船員顕彰会](#)

戦没船員 60,607人、 広島県 3428人（都道府県別で最多）日本商船隊の壊滅

陸軍墓地 91カ所（陸軍 84 海軍 7）、

海軍=四鎮守府（横須賀・舞鶴・呉・佐世保）、東京、函館、佐賀関

[全国軍用墓地一覧](#)

[海上自衛隊呉史料館（仮称）整備等事業](#) 自平成17年3月30日至平成26年3月31日

てつのかしら館 2007年2月13日開館。<http://www.jmsdf-kure-museum.jp/>

1995年（平成7年）12月8日 [呉海軍工廠 女子動員学徒寄宿舎跡](#)

戦争遺跡 近代化遺産

1993（平成5）年、「重要文化財」に新たにもうけられた種別。

日本の近代化に大きな役割を果たしてきた産業、交通、土木に係る構造物については、技術革新や産業構造の変化等により取り壊しが進んでいる。

このような構造物が、我が国の近代化を担いながらも現在失われつつある状況の中で、近代化遺産としての物件の特定及び保存のための調査、及びそれに基づく指定を行っている。

近代化遺産の調査・研究

文化庁、1990（平成2）年より近代化遺産総合調査事業を開始。<1993年、旧碓

氷線橋梁隧道群（群馬県）・旧藤倉水源地堰堤放水路（秋田県）が近代化遺産として初めて国の重要文化財に指定される。>

都道府県ごとに実施。広島県 164件

原爆ドームの場合

1994.9.1 文化庁、「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」を設置。

1995.6.27 原爆ドーム文化財史跡指定。

戦争遺跡保存全国ネットワーク結成。1997年。

文化庁の近代遺跡調査等検討会（会長・鳥海靖中央大教授）

2002年8月9日、近代遺跡（戦争遺跡）の詳細調査対象遺跡・50件を公表。

広島県分

旧陸軍広島湾要塞関係遺跡（広島県佐伯郡宮島町ほか）

旧海軍呉鎮守府及び呉海軍工廠関係遺跡（同呉市）

旧海軍兵学校関係遺跡（同安芸郡江田島町）

旧陸軍芸予要塞大久野島砲台及び旧陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所（同竹原市）

産業遺産活用委員会（経済産業省設置、2007年4月）

11月30日、我が国産業の近代化に大きく貢献した地域史、産業史を軸とした近代化産業遺産ストーリー33をとりまとめ、ストーリーを構成する近代化産業遺産について、地域活性化に役立つものとして認定。

NO.2 欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群

旧呉海軍工廠関連遺産

（不動産）呉海軍工廠 造船船渠大屋根（㈱アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド呉工場内）

（動産）戦艦「大和」設計図面、10分の1戦艦「大和」、巡洋戦艦「金剛」搭載のヤーロー式ボイラー、戦艦「大和」型150センチ探照灯反射鏡

回天・陸奥、硫黄島からの手紙

夕凧の街 桜の国（単行本） ころの 史代（著）¥ 840（税込）103 ページ：双葉社（2004/10）

「宇宙戦艦ヤマト」の評価

夏目房之介「マンガと戦争」

戦艦大和がもはや「軍国主義」の象徴であることをやめても誰も文句を言わない時代がきたことを意味していた。太平洋戦争の象徴であった戦艦大和のポップな戯画化。

資料4) 最近の原爆報道より

被爆樹木写真集:「広島の声なき語りべたち」、東京の木村早苗さん出版 / 広島

(毎日新聞) - 3日(木)18時1分 - 広島

田上・長崎市長:核兵器の廃絶へ大学生らに講演 / 京都 (毎日新聞) - 3日(木)15時1分 -

米大統領、被爆地・広島訪問に関心＝自身は無理でも「興味深い」

(時事通信) - 3日(木)8時36分 - 海外総合【ワシントン2日時事】

写真展:焼き裂かれた布、被爆後の時紡ぐ 石内都さん、広島市現代美術館で / 広島

毎日新聞 - 2008年7月2日

「被爆ピアノ」で演奏会 広島の小学校、平和の尊さ訴える

(産経新聞) - 2日(水)20時47分 - 社会

三次市:平和祈念事業の概要まとめる 原爆と戦争の記憶、風化させない / 広島

毎日新聞 2008年7月3日 地方版

福田首相、北京五輪開会式出席へ (読売新聞) - 2日(水)18時27分 - 政治

県原爆死没者慰霊祭に100人 読売新聞 - 2008年6月30日

原爆影響、心身面で調査＝3万5千人、初の大規模実施－広島

(時事通信) - 2008年6月30日(月)12時1分 - 社会

北海道洞爺湖サミット:開催まで7日 歓迎、反発...開幕の足音 / 北海道

(毎日新聞) - 2008年6月30日(月)11時2分 - 北海道

美空ひばりさん名曲がクラシックで再び

(デイリースポーツ) - 2008年6月30日(月)9時28分 - エンタメ総合

新学習指導要領:ことわざなど具体例 小学校の解説書を公表 毎日新聞 - 2008年6月30日

長崎大、ペラルーシに拠点準備「被ばく医療学」確立へ 朝日新聞 - 2008年6月29日

平和大行進 長崎市を出発 核兵器廃絶訴え、50周年の歩み

西日本新聞 - 2008年6月28日

平成の名水百選:桂の滝にお墨付き、認定書――呉・蒲刈町 / 広島

(毎日新聞) - 2008年6月28日(土)16時1分 - 広島

中国人被爆者追悼碑:来月7日に除幕式 / 長崎

(毎日新聞) - 2008年6月27日(金)17時1分 - 長崎

[被爆体験集:初めて在韓3人の手記も 新日本婦人の会、第42集出版 / 広島](#)

(毎日新聞) - 2008年6月26日(木)16時1分 - 広島

ソニミ事件生存者が被爆地へ 今夏、広島と長崎初訪問 47NEWS - 2008年6月26日

街並みの記憶:所蔵写真から / 10 旧広島修道院(1937年) / 広島

毎日新聞 - 2008年6月26日

原爆死没者名簿:4412人分の人生 広島市役所で記帳始まる / 広島

毎日新聞 - 2008年6月27日

「宝探しは人間の欲望」 ジョージ・ルーカスに聞く 朝日新聞 - 2008年6月25日

放影研:2年以内に将来構想 日米で話し合い進める―理事会 /広島

(毎日新聞) - 2008年6月24日(火)15時1分 - 広島

平和の折り鶴:市域越え広がりに―岩倉 /愛知

(毎日新聞) - 2008年6月24日(火)13時1分 - 愛知

悼む:ユースホステル経営・森岡まさ子さん=5月13日死去・98歳

毎日新聞 - 2008年6月24日

青少年ピースボランティア:長崎で学習会、語り部から若者が被爆体験受け継ぐ /長崎

(毎日新聞) - 2008年6月23日(月)15時1分 - 長崎

映画:来月20日「劫火」上映 原爆の図を描き続けた故丸木夫妻の画業たどる /富山

(毎日新聞) - 2008年6月23日(月)15時1分 - 富山

入市被爆者」も語り部に 広島・原爆資料館 高齢化、登録者減り(06/21)

北海道新聞 2008年6月21日

ふるさと納税:地域のために寄付を 長崎市と佐世保市で受け付け /長崎

毎日新聞 - 2008年6月21日

広島と情報共有促進へ 原爆死没者追悼平和祈念館 長崎新聞 - 2008年6月20日

一番電車で電気 変電所閉鎖 中国新聞 - 2008年6月20日

ブラジルで初の原爆展開催へ 中国新聞 - 2008年6月20日

平和学習:協力隊員ら、海外ボランティア出発前に /広島

毎日新聞 2008年6月20日 地方版

首相の北京五輪開会式出席「実現に向け調整」官房長官 日本経済新聞 - 2008年6月18日

30年前の反戦ピラなど 100点 中国新聞 - 2008年6月18日

広島に国連平和機関の誘致を 中国新聞 - 2008年6月18日

放影研構想報告書「被爆2世追跡調査を」 読売新聞 - 2008年6月18日

松井康浩氏死去 47NEWS - 2008年6月11日

被爆者救済が大きく前進 公明新聞 主張- 2008年6月11日

原爆症訴訟 判決を「総合認定」に生かせ(6月11日付・読売社説)

社説:原爆症裁判 幅広い救済に新・新基準を 毎日新聞 - 2008年6月10日

アメリカの大学生たちが「原爆」を学ぶために来日

5月29日18時0分配信 [オーマイニュース](#)

[武藤は許さん！中西がIWGP挑戦志願](#)

(デイリースポーツ) - 2008年5月6日(火)9時20分

[長崎市長が釜山で被爆者遺族に謝罪、手当て未払いで](#)

(YONHAP NEWS) - 2008年5月2日(金)17時51分 - 韓国【釜山2日聯合】

[岡本太郎の巨大壁画「明日の神話」が渋谷に―招致合戦に決着](#)

(シブヤ経済新聞) - 2008年3月18日(火)15時30分 - 東京